

平成26年度環境と健康のコミュニティ活動助成事業一覧

部門	団体名	事業名	活動の概要
導入型	世羅町 黒川地区	地域環境クリーン作戦	町道、県道を中心に清掃活動を行い、参加者が一緒に楽しめる事業として取り組み、環境への啓発活動を行う。
	尾道市	「ちょっと遠くへ!お出かけウォーキング」マップづくり	ウォーキングへの意欲を高め、実践に結びつける取り組みとして、市内おすすめの「ウォーキングロードマップ」を作成する。
	神石高原町	環境を守る事業	町内全域の道路・河川の清掃、草刈りおよびごみの分別収集を行い、より一層の環境美化保全推進を図る。
発展型	大崎上島町	紙芝居作成 (アイドリングストップ物語)	アイドリングストップ運動の10年間の歩みをまとめた紙芝居を作成し、環境への意識啓発を行う。
	廿日市市 佐伯	2014佐伯リサイクルまつり おいでよ マナーんでよ	リサイクルまつりを開催し、ごみの減量化、資源の有効活用を推進し、地球環境を守ることの動機付けを行う。
	北広島町	北広島町笑顔で取り組む 脱温暖化のまちづくり事業	エネルギーの無駄遣いをなくす生活習慣を広め、日常生活から排出される二酸化炭素を減らす取り組みを行う。
	東広島市	アイガモ農法による 米づくり事業	アイガモ農法による米づくりを行い、食をとりまく環境や健康についての啓発活動を行う。
	世羅町 西大田地区	きんさいや西大田地区へ	水辺教室やエコツアーを開催し、他地区との交流を図り、西大田の公衛協活動を世羅町全体に波及させる。
	福山市 泉学区	『学社融合』 小さな行動大きな“力”に!! 継続は力なり	緑のカーテン、マイ箸づくりなどの活動を行い、温暖化防止の必要性を楽しく興味を持って学習し、アクションを起こしてもらう。
	福山市 道上学区	環境家計簿 蓄積データ活用事業	2年間分の環境家計簿蓄積データを活用して、道上学区民の節電意識の向上、環境家計簿取り組み家庭の増加を図る。

支援の充実・事業展開 そして地域の発展へ

当協会の「地域活動支援基金」活用事業について、平成26年度の実施状況を報告する。

◆環境と健康の「コミュニティ活動助成事業」◆

この事業は、平成20年度から実施しており、「導入型」「発展型」「広域型」の三部門で助成を行っている。今年度は、導入型3件、発展型7件の計10件が採択された。

世羅町黒川地区公衛協、神石高原町公衛協は、今年度初めて申請があった。北広島町公衛協は、平成20年度から継続して脱温暖化に向けた事業に取り組み、毎年改良

平成26年度地域活動支援基金活用事業報告

を重ねている。また、福山市泉学区公衛協は、学社融合型の事業を平成22年度から継続して取り組み、対象範囲を広げるなど、事業を拡大している。

今年度助成した事業は、今後も課題改善に向けての取り組みや工夫を行い、導入型は発展型へ、発展型は広域型へとさらなる事業の拡大展開を期待する。

◆環境啓発ポスター・標語コンクール事業◆

この事業は、平成20年度から実施しており、今年度は22団体が参加した。また、コンクールで集

まった作品を活用する「事後フォロー」活動に参加する団体は15団体あ

る。また、コンクールで集

まった作品を活用する「事後フォロー」活動に参加する団体は15団体あ

る。また、コンクールで集

まった作品を活用する「事後フォロー」活動に参加する団体は15団体あ

る。また、コンクールで集

り、祭りやイベントで、展示や表彰式を行うなど、さまざまな活用と広報が展開されている。

この事業は、年を重ねるごとに応募作品が増加し、感性豊かな作品が多くみられ、作品のレベルも上がっている。今後も、地域の盛り上がりを目指すなど、さらなる事業の展開を図りたい。

◆市町公衛協事務局サポーター養成事業◆

この事業は、平成21年度から実施しており、今年度の支援対象公衛協は、竹原市、東広島市、北広島町の2市1町である。また、これまで6年

町は今年度で4年目、東広島市は3年目の支援となる。今年度も個別支援や各種研修を行い、公衛協活動や事務手続きのスキルアップに貢献できた。また、これまで6年

しており、事務局体制の強化につながった。今後も、円滑に運営できる事務局体制づくりをめざし、公衛協事務局のサポートができる人材の養成と力量向上を図っていく。

(地域活動支援センター)

きんせんか 琴線歌

食品の異物混入が社会問題になっている。大手ファーストフードチェーンの食品とロングセラーのカップ焼きそばで相次いで異物混入がみつかり、大

幅な売上の落ち込みや製造中止に追い込まれた。もちろん、食品に異物混入があつてよい道理はないが、この問題はネット社会やセンサーシリアルなマスコミ報道、消費者のゼロリスク信仰などがない交ぜになつてバイアスをかけ、事の大

「食品の異物混入報道に思う」

きさ以上の社会問題になつてしまった感が強い▼強調しておきたいのは、今回の問題はあくまでも食品の安全性と食品ロスなどのバランスの上に成り立つべき議論だとい

い学校のことが、明るい「ユース」として取り上げられるような社会は健全だとは思えない▼セラゲルディン氏は世界銀行副総裁だった当時、「20世紀は石油をめぐって戦争が勃発したが、21世紀は水と食料をめぐって戦争が起る。」と警告している。食料自給率が4割に満たない国に住む私たちは、この「コメント」を一笑に付すわけにはいかない。



一般財団法人 ～みんなの生命(いのち)をまもりたい～ 広島県環境保健協会

〒730-8631 広島市中区広瀬北町9番1号(広島県公衆衛生会館)
TEL:082(293)1511 [大代表] FAX:082(293)1520

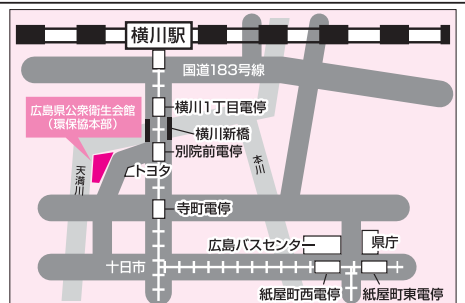
基本理念

～みんなの生命(いのち)をまもりたい～

私たちは、健康づくりと住みよい環境づくりに取り組み、地域社会の発展に貢献します。

かんぽきょう

検索



里山・里海をテーマに広がる世代間交流

地元の環境を学び、守り、伝えるために

実践事例紹介

スクールキャリアバン事業は、「生涯にわたる健康づくりと住みよい環境づくり」への関心を持たせる、あるいは公衛協と学校が持続的に活動する学社融合システム構築を目指し、小・中学校を対象に体験型の環境・健康学習を実施する事業である。また、事業を通じて、公衛協の人材発掘・育成や活動メニューの拡充につなげるほか、水質浄化・里山復元・温暖化対策・健康づくり事業など、地域ニーズに合わせた実践活動の発展をねらっている。

止、ごみ分別、不法投棄などの「環境学習・ごみ問題学習」、地域マップづくり、世代間交流などの「まち・暮らし学習」といったものである。

事業の申請にあたっては、公衛協・学校・環境協の3者でテーマや日程調整を行い、必要に応じて当協会のスタッフや専門家を派遣している。

この事業を活用し、公衛協活動の周知や他団体との連携強化、活動の活性化につなげていた。また、水田の生き物調査、資源エネルギー学習、グリーンカーテン、エコクッキング、制服のリユース、ごみステーションへの環境ボスターの掲示、夏祭りでのエコ灯籠を使った環境保全の呼びかけ活動など、学習と学習成果の発信を続けている。

地域とともに活動してきた学習会と成果発信、連携と親睦が評価され、平成26年度地球温暖化防止活動環境大臣賞を受賞した。

実施内容は、水辺・海辺・里山教室、ビオトープづくりなどの「自然体験学習」、地球温暖化防

止、ごみ分別、不法投棄などの「環境学習・ごみ問題学習」、地域マップづくり、世代間交流などの「まち・暮らし学習」といったものである。

事業の申請にあたっては、公衛協・学校・環境協の3者でテーマや日程調整を行い、必要に応じて当協会のスタッフや専門家を派遣している。

この事業を活用し、公衛協活動の周知や他団体との連携強化、活動の活性化につなげていた。また、水田の生き物調査、資源エネルギー学習、グリーンカーテン、エコクッキング、制服のリユース、ごみステーションへの環境ボスターの掲示、夏祭りでのエコ灯籠を使った環境保全の呼びかけ活動など、学習と学習成果の発信を続けている。

実施内容は、水辺・海辺・里山教室、ビオトープづくりなどの「自然体験学習」、地球温暖化防

止、ごみ分別、不法投棄などの「環境学習・ごみ問題学習」、地域マップづくり、世代間交流などの「まち・暮らし学習」といったものである。

事業の申請にあたっては、公衛協・学校・環境協の3者でテーマや日程調整を行い、必要に応じて当協会のスタッフや専門家を派遣している。

この事業を活用し、公衛協活動の周知や他団体との連携強化、活動の活性化につなげていた。また、水田の生き物調査、資源エネルギー学習、グリーンカーテン、エコクッキング、制服のリユース、ごみステーションへの環境ボスターの掲示、夏祭りでのエコ灯籠を使った環境保全の呼びかけ活動など、学習と学習成果の発信を続けている。

実施内容は、水辺・海辺・里山教室、ビオトープづくりなどの「自然体験学習」、地球温暖化防

止、ごみ分別、不法投棄などの「環境学習・ごみ問題学習」、地域マップづくり、世代間交流などの「まち・暮らし学習」といったものである。

事業の申請にあたっては、公衛協・学校・環境協の3者でテーマや日程調整を行い、必要に応じて当協会のスタッフや専門家を派遣している。

この事業を活用し、公衛協活動の周知や他団体との連携強化、活動の活性化につなげていた。また、水田の生き物調査、資源エネルギー学習、グリーンカーテン、エコクッキング、制服のリユース、ごみステーションへの環境ボスターの掲示、夏祭りでのエコ灯籠を使った環境保全の呼びかけ活動など、学習と学習成果の発信を続けている。

実施内容は、水辺・海辺・里山教室、ビオトープづくりなどの「自然体験学習」、地球温暖化防

止、ごみ分別、不法投棄などの「環境学習・ごみ問題学習」、地域マップづくり、世代間交流などの「まち・暮らし学習」といったものである。

事業の申請にあたっては、公衛協・学校・環境協の3者でテーマや日程調整を行い、必要に応じて当協会のスタッフや専門家を派遣している。

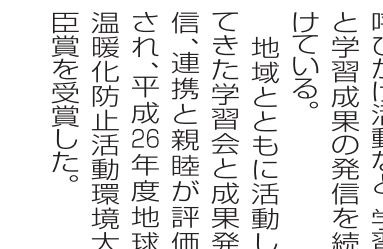
この事業を活用し、公衛協活動の周知や他団体との連携強化、活動の活性化につなげていた。また、水田の生き物調査、資源エネルギー学習、グリーンカーテン、エコクッキング、制服のリユース、ごみステーションへの環境ボスターの掲示、夏祭りでのエコ灯籠を使った環境保全の呼びかけ活動など、学習と学習成果の発信を続けている。



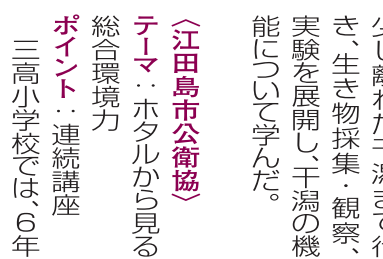
水田の生き物採取する児童たち(上)、採取した生き物を観察し、野帳に記録(下)



〔呉市倉橋地区公衛協〕
テーマ：地元の海岸生物



〔江田島市公衛協〕
テーマ：ホテルから見る総合環境力



干潟で生き物採取する児童たち(上)、講師から干潟の機能について学ぶ(下)



木下川の飛翔条件などを調査する児童たち(上)、班ごとに研究テーマを設定して受講(下)



木下川の飛翔条件などを調査する児童たち(上)、班ごとに研究テーマを設定して受講(下)



株式会社かんぽきょうコミュニティサポート

「リハビリサロンおひさま」3月開所 こだわりは見える化したプログラム

当協会出資の「株式会社かんぽきょうコミュニティサポート」が、今月、広島市安佐南区緑井に「リハビリサロンおひさま」を開所しました。

「リハビリサロンおひさま」は、要支援や要介護認定を受けた方を対象とした介護保険サービスで、トレーニングマシンなどを使用した機能訓練に特化した半日の介護予防・重度化予防サービスです。事業所は、「おひさま」の名のとおり、人の温もりを感じる清潔感のある空間をイメージしたデザインとなっており、トレーニング・プログラム・くつろぎの3つのゾーンに分かれています。

トレーニングゾーンでは、利用者ごとの運動設定(負荷や回数)が自動で行えるリハビリ機器を使用し、根拠に基づいた運動を提供します。運動データは自動で記録・保存されるので、利用者やご家族の皆さまに運動効果を実感していただけます。プログラムゾーンでは、認知症予防や転倒予防につながる運動のほか、生活機能の改善を目的とした座位中心の運動を行います。くつろぎゾーンでは、カフェのような雰囲気の中で、挽きたての豆を使ったコーヒー等の本格的な飲み物や、スタッフや利用者どうしの楽しい会話を楽しんでもいただけます。その他、運動機能や身体組成、認

知機能などの変化が分かるような仕組みを取り入れており、「見える化」による利用者のやる気や満足度の向上に役立っています。

当協会は、この事業の県内展開を視野に入れて、県民の健康長寿の延伸に寄与し、元気な高齢者がコミュニティを支える社会づくりに貢献したいと考えています。



カフェのような雰囲気のくつろぎゾーン(上)、充実した機器が並ぶトレーニングゾーン(下)

(新事業開発課 瓜本正樹)

境学習を展開した。「ホテル」をキーワードに、地元の木下川のホテルの飛翔の場所、時期、数などの聞き込み調査や、川に入り幼虫を採集して飼育を体験するなど、

地元の自然環境とその変化について考えた。

この事業は、小学校が企画し、当協会職員がコーディネートを務め、事業の進捗に応じてホテルの専門家や、地元

の環境を守る活動をしている公衛協に、ゲストティチャーとして参加していただく手法で実施した。児童は班ごとに研究テーマを設定して授業に臨み、学習成果

を模造紙にまとめて発表した。

今回の紹介したのは、学校と連携した事業を検討の際は、同事業の活用を検討いただきたい。

(地域活動支援センター)

地球温暖化防止活動推進員研修

新規養成研修会開催 地域で11件の実践活動を展開

脱温暖化センターひろしまでは、「地球温暖化防止活動推進員」の新規養成研修会を開催した。

研修は、前期(7/25)・中期(8/8)・後期(12/9)の3回に分けて実施した。前期で温暖化の基礎や事例などを学び、実践可能な企画テーマを抽出して中期で具体化。そして、約4カ月間で実践し、後期で報告するというものである。今回は、企画した実践活動を紹介する。

■ふんわり運動

【大崎上島けんこう文化の島づくり協議会】
エコドライブPRチラシを作成し、フェリー乗り場のドライバーに配布するとともに、アンケートを実施。4日間で206人の協力が得られ、エコドライブへの関心および実践状況を調査した。実践率はまだまだ低く、今後も根強く啓発していく。



ドライバーにアンケートを実施

■使ってみませんか？ おしゃれで素敵なエコたわし

【布野の食と脱温暖化を考える会】

■あまみずためそうプロジェクト

【福山北部脱温暖化地域協議会】

雨水の有効利用でCO₂削減を図ろうと、雨水貯留システムの有効性を検証。結果は、新市学区内の回覧で報告するとともに、設置希望者を募集した。希望者はゼロだったが、引き続きシステムの普及をめざす。

■電気・ガス・ガソリン・水道使用量「見える化」キャンペーン

【エコネットたけはら】
電気・ガス・ガソリン・水道使用量を毎月記録するシートおよび

領収書保管ケースを協力者92人に配布。視覚的に使用量の推移が把握できるよう、記録シートを工夫した。今後、シートを回収・分析し、竹原市の標準値づくりに活かす。

■エコライフを始めよう！ 簡単！廃油石けんづくり

【かんきょう会議 浮城】
環境問題をさまざまな視点で考え行動する仲間を増やそうと「廃油石けんづくり講座」を開催し、容器ごみや運搬・焼却にかかるエネルギー使用量の削減、油の製造工程なども紹介。今後は、三原市

内各地での講座開催をめざす。

■資源リサイクルで脱温暖化 〜廃油でアワ・あわ・泡せうけんづくり〜

【福山市公衆衛生推進協議会】
福山市の講座に参加し、廃油石けんに関する知識や作り方を習得。その後、手塚学区ま



ちづくり推進委員会主催の学習会で、石けんづくりの指導および資源の有効利用や河川浄化の重要性などを伝えた。今後、新規事業として導入を検討する。

■健康で涼しい夏を 〜ゴーヤを栽培し涼風を〜

【大河学区老人クラブ連合会】
緑のカーテンの普及拡大をめざし、「ゴーヤ鉢植え育成マニュアル」「ゴーヤの調理マニュアル」「種の保存マニュアル」を作成。来年度、関係団体へPRする際に活用する。

■循環型社会に向けて 廃品を有効活用

【呉市川尻町西部2地区自治会】
毎月第4土曜日の資源回収をPRするほか、



「出前トーク」を開催。資源再生や3R活動、ごみの排出状況と処理に係る経費について周知し、ごみ減量やリサイクルの大切さを呼びかけた。今後も、機会を設けて啓発していく。

【脱温暖化センターひろしま】

■エコ自治会組織づくりを考える in 西上原地区

【脱温暖化プロジェクトせり】
エコ自治会を増やそうと、世羅町西上原地区をモデルに、エコの視点で見て歩く「裏道ウォーキング」や、エコ実践者宅をプロットした「笑コマップ」の作成、実践者宅を訪問する「笑コ八景参観ツアー」などを実施。今後もモデル活動を推進しながら、他の自治会へ働きかけ

ていく。



ながカープチエーが開催された。福山市西部ブロック公衛協はブース出展を行い、がん検診の受診勧奨活動を行った。

これまで、このイベントに公衛協は出展して

の学区ごとの大腸がん健診の受診率をグラフで紹介したパネル等の展示や、広島県・福山市・松永エリアのがん検診受診状況をまとめた資料と受診PRポ

が低いことにより、がん検診の受診率をグラフで紹介したパネル等の展示や、広島県・福山市・松永エリアのがん検診受診状況をまとめた資料と受診PRポ

パネルとチラシで受診勧奨 アンケート調査や研修会も企画



がん検診の大切さについて訴えるため、出展を決めた。当日は、福山市の成人健診課・松永支所保健福祉課と協働し、福山市

がん検診の大切さについて訴えるため、出展を決めた。当日は、福山市の成人健診課・松永支所保健福祉課と協働し、福山市

がん検診の大切さについて訴えるため、出展を決めた。当日は、福山市の成人健診課・松永支所保健福祉課と協働し、福山市

がん検診の大切さについて訴えるため、出展を決めた。当日は、福山市の成人健診課・松永支所保健福祉課と協働し、福山市

がん検診の大切さについて訴えるため、出展を決めた。当日は、福山市の成人健診課・松永支所保健福祉課と協働し、福山市

【省エネ設備導入後の省エネ診断】
「エコだうたか診断」
【広島市地球温暖化対策地域協議会】
省エネ診断受診後に太陽光発電やエネファームなどを導入した家庭2軒を訪問し、導入後の効果や運用を調査。引き続き、成功・失敗事例を集め、広く紹介していく。

広島県市町国保

受診率5年連続全国最下位

予防・早期発見のため年1回の健診を

のばそう！健康寿命
健康ひろしま
21^{第2次}

⑤ 特定健康診査・特定保健指導

広島県の特定健康診査受診率は全国と比べて低い状況であり、平成25年度の市町村国保においては広島県の特定健康診査受診率は22.1%で、5年連続全国最下位となっております。特定健康診査受診者のうち、メタボリックシ

ンドローム該当者及び予備群該当者の割合は広島県では26.4%、約32万人(平成22年度)と推計されています。メタボリックシンドロームは、高血糖・脂質異常・高血圧を呈する病態であり、それぞれが重複した場合、虚血性心疾患、脳血管疾患の発症リスクが高くなります。また、これらの疾患は一端発症すると日常生活に大きな影響を及ぼします。そのため、健診等で生活習慣病のリスクを早期に把握し、保健指導等で生活習慣を改善することにより生活習慣病発症の予防を行うことや、健診結果で治療が必要と診断された場合は、早期に医療機関を受診することが必要です。広島県では、特定健康診査の受診率及び特定保健指導の実施率を向上させるため、特定健康診査の意義や効果について、多様な機会に情報提供を行うなど意識啓発や受診勧奨を行うとともに、スマートフォン等を活用した啓発活動に取り組み、健康ひろ

ひろしま健康ネットのトップページ



健康づくり、健康対策、早期発見、治療費の助成、健康づくりお役立ち情報などを章立てて、さまざまな情報を提供する

- 健康ひろしま21(第2次)の県HP
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/57/kenkouhirosima-dainiji.html>
- ひろしま健康ネット(広島県民の健康な暮らしを応援する情報サイト)のHP
<http://kenkou-net.pref.hiroshima.lg.jp/>

ま21(第2次)の目標値として、メタボリックシンドロームの該当者及び予備群について、平成20年度に比べ25%減少(平成29年度)、また、特定健康診査受診率について65%以上(平成29年度)としています。生活習慣病の予防や早期発見に努め、生活習慣の改善や早期に適切な治療に結びつけるため、毎年1回、特定健康診査を受けましょう。

「健康ひろしま21の推進に向けて」

広島県は、今後とも健康寿命の延伸に向け、健康ひろしま21(第2次)に基づき、県民の皆様や市町、医療保険者、企業、関係機関団体等のご理解とご協力のもと、県民一人ひとりの主体的な健康づくりを

効果的に支援します。
シリーズおわり
(広島県健康福祉局 健康対策課)

IPCC 地球温暖化の最新知見

⑥ 最終回

IPCC第5次報告書は、このまま温暖化が進めば、極端な高温が増加する「旨の報告をしています。下図は気象庁が予測した100年後の猛暑日(日最高気温35℃以上の日)の年間日数の変化を示したものです。私たちの住んでいる中国地方(図では西日本日本海側と西日本太平洋側)にあたります(では、現在より約10

日増加する予想です。現在、広島、福山の猛暑日の年平均は約6日、三次は5日位ですので、現在の3倍前後の猛暑日が予想されています。IPCC第5次報告

地球温暖化抑制のためには、効果のある特定対策があれば、と考えている方も多いと思います。この点について、「二酸化炭素の吸収、太陽光の遮蔽など

人類が豊かな文明社会を築き上げてきた過程で生み出してきた新たな問題である地球温暖化は、地球規模の問題であるだけに、解決に向けた方策は国ごとの利

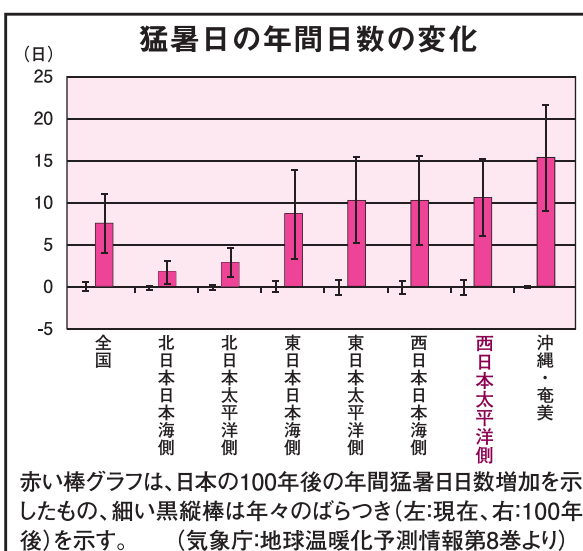
は、是非報告書に目を通してみてください。私自身もこのシリーズの執筆に当たり、いろいろ調べながら、地球温暖化関連で今何が議論されているのか勉強になりました。ご愛読どうもありがとうございました。シリーズおわり
(広島地方気象台 観測予報課 岡崎賢治)

100年後に猛暑日3倍 温暖化抑制の特効薬は無い

書は地球規模の視点から記述をしています。ここでは中国地方の予想を示したことで、地球温暖化の影響が身近に感じられたのではないのでしょうか？

で、進行する温暖化に抑制をしようとする研究が進んでいるものの、まだ実用レベルではない」とIPCC第5次報告書では述べられています。

害関係も絡んで本当に難しい問題です。さて、この回をもってシリーズの終わりとします。紹介しきれなかった部分が多分にあります。興味をもたれた方



話題の健康づくり

アラカルト

⑤ 禁煙のすすめ

喫煙は、がん、脳卒中、心筋梗塞、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、糖尿病、歯周病など、さまざまな病気の原因になります。30歳以降の平均余命を比較すると、80歳までの生存率は、男性非喫煙者が61%に対し、喫煙者は26%と半減します。習慣的に喫煙している人は、20.7%(男性34.1%、女性9.0%)。国は、喫煙による健康被害を減少させるため、平成34年度に喫煙率を12%にする目標を掲げています。

遅すぎるということはない セミナーや治療薬など多くの支援



「今度こそ絶対にやめる」と決心しても、ついまたタバコを吸ってしまうのはなぜでしょうか？それは、タバコの煙に含まれるニコチンが強い依存性を持つため、「ニコチン依存症」という病気の原因です。でも大丈夫、「やめたい」気持ちを支援するさまざまな取り組みがあります。

禁煙に関するセミナーや講演会も頻繁に開催されるようになりました。当協会は、「広島県禁煙支援ネットワーク」の事務局を担当し、PR活動やセミナーの運営を行っています。また最近では、特定健診やがん検診の場などを利用して、短

い時間でも医療従事者から直接アドバイスや禁煙解決策の提案が受けられる「短時間支援(3分程度)」も実施され、身近なところでも禁煙を意識する機会が増えていきます。また、インターネットを使った「禁煙マラソン」という支援もあり

ます。じっくりカウンセリングを受けて確実に禁煙したい方は、禁煙外来がおすすめです。禁煙外来では、要件を満たせば保険診療で禁煙治療を受けられます。治療薬にはニコチンパッチ(貼り薬)、パレニコリン(飲み薬)などがあり、3カ月間の通院が必要ですが、それにかかる費用は約2万円、1日1箱のタバコを3カ月買うよりも安くなります。



早く禁煙すればするほど、生存率は高まります。遅すぎるということはありません。この機会に、自分に合った禁煙方法を選んで、禁煙にチャレンジしてみませんか。

(健康増進課 野間 沙央理)

日本禁煙学会

<http://www.nosmoke55.jp/nicotine/clinic.html>

広島県禁煙支援ネットワーク

<http://www.menet-hiroshima.jp/kin-en/>

献血のすすめ

④ 献血推進計画その3

血液は人工的につくれません

皆さまのご協力をお願いします

今回は前回に引き続き、平成26年度広島県献血推進計画の「血液の目標量を確保するための具体的な実施事業」について説明します。

1 献血推進組織の育成に関する事項

(1) 市町献血推進担当者会議などの開催

県は、10月に「市町献血推進担当者会議」を開催するなど、市町や献血推進協力団体など

の担当者との意見交換を積極的に行い、地域における献血推進活動のさらなる活性化を図っています。

(2) 献血推進組織の活動支援

県は、市町献血推進協議会と協力して、県内各地域で開催されている行事と連動した献血イベントを、啓発資材の提供等を通じて積極的に支援し、職域を含む献血組織の新規拡大と献血の普及啓発を行います。

2 血液製剤の在庫水準の常時把握と不足時の確な対応

県は血液センターと連携し、赤血球製剤等の在庫水準を常時把握し、在庫が不足する場合又は不足が予測される場合には、早急に必要対策を講じます。

3 災害時などにおける献血の確保に関する事項

県は、災害時などにおける血液の需要状況を踏まえ、継続的に安定供給が確保されるよう必要な措置を講じます。

あなたの協力で、救える命があります！

医療技術が大幅に進歩した現代でも、血液は、人工的につくることはできません。輸血に必要な血液を十分に確保し、いつでも

献血の基準と間隔

◎主な献血基準		400mL 献血	200mL 献血	血しょう成分献血	血小板成分献血
年 齢	男性	17～69 歳 ※1	16～69 歳 ※1	18～69 歳 ※1	18～69 歳 ※1
	女性	18～69 歳 ※1			18～54 歳
体 重	男性	50kg 以上	45kg 以上	45kg 以上 ※2	47kg 以上 ※2
	女性		40kg 以上		
年間献血回数	男性	3 回以内	6 回以内	血小板成分献血 1 回を 2 回分に換算して血しょう成分献血と合計で 24 回以内	
	女性	2 回以内	4 回以内		
年間総献血量		200mL と 400mL 献血をあわせて 男性 1200mL 以内 女性 800mL 以内			
◎献血の間隔		今回の献血種類			
		400mL 献血	200mL 献血	血しょう成分献血	血小板成分献血
次の献血	400mL 献血	男性 1 2 週間後	男女とも 4 週間後	男女とも 2 週間後	
	200mL 献血	女性 1 6 週間後			
	血しょう成分献血	男女とも			
	血小板成分献血	8 週間後			

※1 65歳以上の献血については、60～64歳の間に献血経験がある方に限ります。

※2 血しょう成分献血・血小板成分献血については、広島県赤十字血液センターでの採血基準です。全国的には、男性45kg以上、女性40kg以上が基準です。

患者さんにお届けできるしくみは、みなさんの善意で成り立っています。

皆さんからいただいた血液は大切に患者さんのもとへ届けます！

広島県内で献血いただけるのは、3か所の献血ルーム(広島市・福山市)と県内を走る移動献血バスです。皆さんからいただいた血液は、中四国ブロック血液センターに集められ、安全上の検査が行われた後、医療目的に応じたさまざまな血液製剤がつけられ、患者さんの待つ医療機関へ供給されます。

患者さんが日々安心して暮らせるよう、また、少しでも多くの命を繋ぎとめられるよう、献

食中毒

⑥ 食物アレルギー



食物アレルギーとは、食物を摂取等した際、身体が食物に含まれるたんぱく質などを異物として認識し、自分の身体を防御するために過敏な反応を起こすことをいいます。症状は、かゆ

人増加しています。そこで、消費者にアレルギー物質に関する情報を提供するため、加工食品にアレルギー物質を含む原材料を表示することが定められてい

生えびそば(か)を「特定原材料」といい、表示が義務付けられています。また過去に一定の頻度で健康被害が見られた20品目(イクラ、キウイフルーツ、ルミ

奨されています。加工食品等には原材料表示の欄外に注意喚起が記載されていることがありますが、店内で焼いたパンや量り売りの惣菜など対面販売を

しているものには、原材料表示がないものもあります。このような場合、アレルギー物質を含む食物も表示されません。原材料を知りたいときは、お店の人にその場

で確認しましょう。食物アレルギーは、いつ発症するか予測できるものではありません。食品の表示によってある程度の情報を得ることができるので、参考にしたいと思っています。

シリーズ終わり
(食品検査課 岩末 菜)

7品目の食品表示義務

対面販売はその場で確認を

み、じんましんなどの軽いものから、意識障害、血圧低下などの重篤なものまであります。

近年、乳幼児から成人に至るまで食物アレルギーの症状を起こす品目(卵・乳・小麦・落花生)が増えています。

アレルギー物質を含む食物は、現在27品目が指定されています。その中でも特に症例数が多く、重篤度も高い7品目(卵・乳・小麦・落花生)は特定原材料に準じるものとされ、表示が推



名 称:クッキー
原材料名:小麦粉、砂糖、植物油、チョコレートチップ、水あめ、乳、食塩、…
乳化剤(〇〇由来)、香料(××由来)、膨張剤、酸化防止剤、△△色素
賞味期限:△△年〇月××日

本製品に含まれるアレルギー物質
小麦・乳

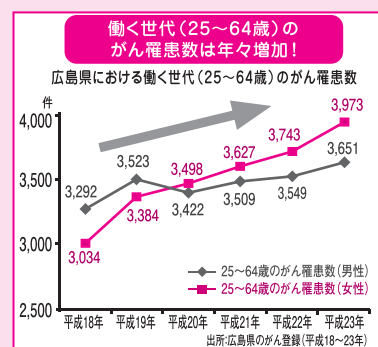
●卵を使用した製品と共通の設備で製造しています

みんなで取り組む 広島県の『がん』対策

⑥就労支援・まとめ

仕事と治療の両立へ

がん対策日本一を目指す



チームがん対策ひろしま
登録企業
取り組みのロゴマーク

医療技術の向上等により、今や、がんは治る病気になっており、働くがん患者は32万5千人にのぼっています。本県においても、40歳から64歳の働く世代のがんの有病者(がん生存者で、5年以内にがんと診断された者)は1万7千人(平成20年末現在)を超えています。

一方、がんに関心した勤労者のうち、30%の人が依願退職し、4%の人が解雇されたとの厚生労働省研究班の報告もあり、がん患者・経験者が働き続けるためには、企業等の理解が不可欠です。

このため、県では、がん患者等に対する企業等の理解や支援が広がるよう取り組みを推進しています。就労支援の必要性や企業経営への効果、先進的な取組事例などを盛り込んだ啓発資料「経営者の皆さまからできること」を作成し、県内企業等に広く配布するほか、本年1月には「がん就労者支援セミナー」を開催するなど、がん患者などの

仕事と治療の両立支援に向けた環境づくりが図られるよう取り組んでいます。また、昨年4月から、「地域の皆さまと社員のいのちを守る」をキーワードに「Teamがん対策ひろしま」登録企業制度を開始しています。登録企業には、がん患者の就労支援や社員の方への検診啓発、がん患者団体への支援等に、具体的な目標を掲げて主体的に取り組んでいただくもので、現在14社が登録されています。

これまで、シリーズで紹介してきましたが、県では、「がん対策日本一」の実現に向け、第2次がん対策推進計画に掲げた6つの分野(がん予防、がん検診、がん医療、緩和ケア、情報提供・相談支援、がん登録)を柱とした総合的ながん対策に取り組んでいます。県民総ぐるみのがん対策を推進するため、関係者の皆さまの御理解と御協力をお願いします。

仕事と治療の両立支援に向けた環境づくりが図られるよう取り組んでいます。

また、昨年4月から、「地域の皆さまと社員のいのちを守る」をキーワードに「Teamがん対策ひろしま」登録企業制度を開始しています。

登録企業には、がん患者の就労支援や社員の方への検診啓発、がん患者団体への支援等に、具体的な目標を掲げて主体的に取り組んでいただくもので、現在14社が登録されています。

これまで、シリーズで紹介してきましたが、県では、「がん対策日本一」の実現に向け、第2次がん対策推進計画に掲げた6つの分野(がん予防、がん検診、がん医療、緩和ケア、情報提供・相談支援、がん登録)を柱とした総合的ながん対策に取り組んでいます。

県民総ぐるみのがん対策を推進するため、関係者の皆さまの御理解と御協力をお願いします。

シリーズ終わり
(広島県健康福祉局 がん対策課)

環保協の社会貢献活動のご紹介 ～私たちは健康づくりと住みよい環境づくりに取り組めます～

当協会は社会貢献活動として、献血、地域清掃活動、環境学習などを、毎年行っています。

献血は、広島県赤十字血液センターに協力を依頼し、当協会を献血会場として、血液が不足する夏季と冬季に、協会職員のほか近隣の事業所などにも呼びかけて400ml献血を実施しています。

天満川左岸美化活動は、当協会周辺の河川敷と歩道の散乱ごみを回収する活動で、毎週1回定期的に実施しています。また、年に1回は「環保協前天満川クリーン作戦」として、河川内外の清掃も行っています。河川敷のごみの回収に加えて、天満川に入ってごみの回収をする作業を行い、毎年軽トラック3台分程度のごみを回収しています。

す。

環境学習では、「かんほきょう天満川自然観察会」を開催しています。今年度は、1月31日に冬鳥の観察を行いました。街中にもかかわらず18種類の野鳥を観察でき、参加した地域の皆さんに楽しんで頂きました。

当協会ではこれからも社会貢献活動を継続し、地域の皆さまとともに健康づくりと住みよい環境づくりに取り組んでいきます。



双眼鏡を使い天満川の野鳥を観察

TEAM
地域 エコ アクション ミーティング



最前線2

⑫ エコINNくろせ

エコINNくろせは、平成18年に設立して以来、小学校の出前講座に取り組んでいる。

この度、広島県立黒瀬高等学校から初めて依頼があり、1月30日、世代間交流も兼ねた環境学習会を開催した。当日は、福祉科の生徒23人

身近なことから脱温暖化 町内全域での活動をめざす

を対象に、座学と体験の2部構成で実施し、前半は、3つのテーマで学習した。1つ目は、「地球温暖化の最新情報 未来の地球と私たちの暮らし」と題し、IPCCリポート「ミューンター（1月1日発行号6面参照）」の吉川美幸さんが、温暖化の仕組みや原因、影響、将来予測、適応策について動画を用いて解説。2つ目は、「家

庭の省エネとCO₂削減」と題し、高鷹生男さんが、家庭からのCO₂排出状況や主要家電の省エネ性能、体験談を交えた家電の賢い使い方を説明。そして3つ目は、「エコINNくろせの活動紹介」と題し、DVDを上映しながら活動を紹介するとともに、小原義昭さんが、地産地消、フードマイ

レージの視点で、地元産の小麦を使った昔ながらのうどんの作り方を説明した。

その後、調理室へ移動し、表皮も一緒に粉にした黒瀬産小麦を使ってうどんづくりに挑戦した。一緒に活動する「喜楽会」のメンバーも加わり、指導にあたった。生徒たちは、「こねた生地を足で踏む」「麺棒で約2mmの厚さに延ばす」「細く切って茹でる」と

いう、一連の流れを体験した。初めて体験した生徒が多く、苦戦しつつも喜楽会メンバーの手助けを得ながら真剣に取り組む。昔の知恵や食べることへの感謝の気持ちを改めて実感したようだ。

同協議会の西濱代表は、「これからも交流を兼ねた学習に取り組む、自分たちができる身近な脱温暖化活動を推進しながら仲間を増やし、町内全域へ活動を広めたい」と意気込みを語った。

公衛協ブロック会議

平成27年度の事業について提案する『公衛協ブロック会議』を、次のとおり開催します。申込みや詳細については、各市町公衛協事務局へお問い合わせください。

◆日時・会場 全会場とも10:00～15:00

- 西部・呉ブロック 3月18日(水) 広島県公衆衛生会館(広島市)
- 福山・尾三ブロック 3月19日(木) 環境保健協会東部支所(福山市)
- 北部ブロック 3月20日(金) 広島北部地域職業訓練センター(三次市)

平成26年度食のセミナー開催 食の安全と安心のために



熱心に講演を聴く参加者

食の安全・安心をテーマに毎年実施している食のセミナーを2月4日に開催しました。当日は、食品事業者、行政関係者など105人が参加しました。

今年度は、厚生労働省中国四国厚生局食品衛生課の田中課長に「厚生労働省にお

けるHACCP推進の取り組みについて」と題し、日本や海外におけるHACCP導入状況や、さらなるHACCP普及をめざした最近の動向について講演いただきました。

続いて、広島県健康福祉局食品生活衛生課の小川主査に「広島県の食品の安全に関する取り組みについて」と題し、広島県の食の安全に関する現状と課題、来年度に計画されている食の安全に関する基本方針及び推進プランについて講演いただきました。

HACCPを普及させるための国と広島県行政の取り組みについて、わかりやす

く説明され、当協会の今後の業務に活かしていきたいと思えます。

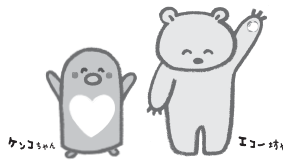
また、三栄源エフ・エフ・アイ株式会社食品保存技術研究室内の小磯室長からは、「食品添加物の有効活用について」「微生物制御に用いられる保存料・日持向上剤」と題し、保存料と日持向上剤の役割や違い、相乗効果について講演いただきました。食品ロスの削減や食品添加物による微生物制御のメカニズム等についての説明も大変勉強になりました。

参加者からは、「国や県の取り組みがよくわかった」「今後の仕事に役立てたい」などの意見がありました。

当協会は、これからも食の安全と安心のための情報を発信してまいります。

(食品検査課)

平成26年度 地区衛生組織活動資金募集



通称

『環境・健康募金』

環境・健康募金(旧 健康感謝募金)は、昭和35年から実施し、平成26年度で55回目を迎えました。集まった募金は、募金委員会によって適正に配分され、各市町公衛協の活動資金として地域社会に役立てられています。

環境・健康募金
総額(円)
57,334,979



Q. 事務費に配分された募金は、どのように使われているの？

A. 次のようなことに使われています。

- 募金事業のPR用チラシやポスター、募金袋の作成費
- 振り込み手数料

※ 事務費：募金事業を円滑に進めるための経費

★募金事業のPR用グッズの例



A3チラシ



募金袋(小・大)



ポスター

市町名	募金額(円)	達成率(%)
安芸太田町	741,550	443.1
北広島町	1,098,600	262.6
安芸高田市	2,151,300	326.6
東広島市	4,312,516	109.9
三原市	1,731,105	79.1
世羅町	909,060	263.7
尾道市	4,292,000	132.8
福山市	8,851,885	89.4
府中市	1,119,802	127.7
神石高原町	345,292	166.2
三次市	2,201,982	185.1
庄原市	2,425,930	303.6
その他	76,349	—
合計	57,334,979	156.4

市町別一覧表(平成27年1月末現在)

※この表は、平成27年1月末までに市町公衛協事務局から募金委員会に振込みのあった実績額を示しています。